

C-1-37 重症急性膵炎に合併したARDSに対しシベレスタットナトリウムが有効であった1症例

宮崎大学医学部附属病院集中治療部

○吉村安広, 松岡博史, 三浦弘樹, 丸田豊明, 濱川俊朗, 高崎眞弓

重症急性膵炎の重篤な合併症にARDSがあり、呼吸管理に難渋することが多い。発症機序は、好中球の活性化によるSIRSの遷延が深く関与している。このため好中球エラスターゼ阻害薬であるシベレスタットナトリウムは、重症急性膵炎が原因のARDSにも有効であると考えられる。今回、シベレスタットナトリウムがARDSの治療に有効であった重症急性膵炎の患者を経験したので報告する。

【患者】54歳、男性。

【現病歴】突然激しい腹痛を自覚し近医を受診した。重症急性膵炎のstage2で重症度スコア4点と診断され、当院内科へ緊急入院した。蛋白酵素阻害剤のウリナスタチン 20万単位/日とメシル酸ガベキサート 2000mg/日を開始し、抗生物質のイミペネム 1g/日が投与された。しかし、3日後にstage3で重症度スコア9点と増悪し、P/F比も入院時の324mmHgから162mmHgまで低下してICUに入室した。

【ICU治療経過】ICU入室後にARDSと診断し、気管挿管して人工呼吸管理(SIMV 12回/分+PS 6cmH₂O, FiO₂=0.6, Tv 460ml, PEEP 6cmH₂O)を開始した。また持続血液濾過透析を開始した。入室1日目にP/F比は179mmHgであったが、入室4日目にP/F比128mmHgとARDSが増悪したため、シベレスタットナトリウム 4.8mg/kg/日の持続投与を開始した。投与3日目にP/F比296mmHgと著明に改善した。その後、人工呼吸器から離脱を開始した。この間、P/F比は193~275mmHgで推移した

がARDSの増悪は認めなかった。投与9日目にP/F比303mmHgとなり、胸部X線所見も改善したため人工呼吸管理の離脱を完了した。

【考察】重症急性膵炎は、SIRSを呈する代表的疾患である。SIRSの遷延によりARDSなどの呼吸不全や多臓器不全を発症することが多い。ARDSの特徴は、肺間質や肺胞内への多数の好中球浸潤を伴う透過性亢進型肺水腫である。活性化した好中球から放出された、エラスターゼなどの蛋白分解酵素が主な原因として考えられている。シベレスタットナトリウムは、選択的に好中球エラスターゼを阻害することで肺傷害に有効性を示すとされている。

本症例では、シベレスタットナトリウム投与3日目にP/F比は、投与前の128mmHgから296mmHgへ著明に改善した。ウリナスタチンやメシル酸ガベキサートなどの蛋白酵素阻害剤を投与しても、呼吸機能の悪化を防げなかったが、シベレスタットナトリウムの投与により呼吸機能の改善が認められた。したがって、重症急性膵炎に合併したARDSに対して、シベレスタットナトリウムが有効性を示したものと考えられる。

【結語】ARDSを合併した重症急性膵炎の患者を経験した。重症急性膵炎に合併したARDSに対してシベレスタットナトリウムは有効であった。